

学校だより

横浜市立十日市場小学校
令和4年4月28日(木)
緑区十日市場町1392番地-1

横浜市情報ネットワーク(YYネット)上に本校のホームページがあります。

URL: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tookaichiba/>

電話: 981-0420

FAX: 983-1694

人は人によって磨かれる ～「芋こじ」の精神で～

校長 平田 あや

桜が散ると木々の緑が日増しに濃くなり、さわやかな季節となってきました。

さて、新年度が始まって約3週間。子どもたちは、新しい学級や教室にも慣れ、生き生きと学校生活を送っています。一人一人がそれぞれめあてをもち、「これをがんばるんだ。」「今年度は〇〇に挑戦したい。」とやる気にあふれていることが感じられます。

さて、皆様は「芋こじ」という言葉をご存知でしょうか。「芋をこじる」の意味で、桶の中に里芋と水を入れ、棒や板でかき回すことを言います。こうすると、芋と芋とがぶつかり合い、こすれ合って、うまい具合に汚れが落ちていきます。そうやって続けていけば、どの芋も傷つくことなく、自然に綺麗になります。転じて、対話や話し合いを通して、人が互いに磨き合う教育の在り方を指すようになりました。

この「芋こじ」を学校教育に当てはめると、桶は教室あるいは学校という空間です。里芋の一つ一つが、子どもたち一人一人です。そして、長い板が私たち指導者です。「芋こじ」は、板(教師)が芋をこするのではなく、板によって動かされた芋が互いにこすり合って磨きをかけていきます。

「芋こじ」からイメージする学習は、一人一人の疑問や気づきを大切にし、子どもたち同士の対話や話し合いを通して問題解決を図り、自らの考えを深めていく学習です。話し合いを重ねる中で、子どもたちは、自分一人では思いつかなかった新しい考えを知り、問題を多面的に捉え物事の本質を認識する力を身に付けることができます。

また、子どもたちは、些細なすれ違いからけんかをしてしまうことがよくあります。しかし、少し時間を置くと、投げつけてしまった強い言葉の奥にある自分の本当の気持ちを伝え合うことができます。この伝え合いを通して、他者の視点から見て自分の言動はどうであったのか、次からどう行動すればよいのかを考えるのです。相手の思いを聞き、他者の視点も取り入れてもう一度物事を見返してみると、自分の側からしか見ていなかった時とは異なる景色や世界が見えてくるはずです。けんかという失敗から、人とのかかわり方を学んでいく—これも「芋こじ」の精神ではないでしょうか。

芋が互いを磨き合うように、人も互いに磨き合う。互いにぶつかり合ったりこすれ合ったりするからこそ、互いのよさを発見し、自分も相手も大切にすることを学ぶことができます。今年度も、こうした人とのかかわりを大切にした教育を推進し、豊かな人間性をもった児童を育てていきたいと考えています。また、新型コロナウイルス感染症の対策もしっかりと講じて学習を進めていきます。保護者や地域の皆様、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。